

年頭 所感

変革期こそ団結と協調を



全日本電設資材卸業協同組合連合会
会長 若林 邦彦

新年明けましておめでとうございます。

旧年中に賜りました、御引き立て並び御支援に心からの感謝と御礼を申し上げます。

本年も旧に倍する御協力をお願いいたします。

昨年度は全日電材連として、政府の政策である「働き方改革」、そして新たな時代に挑戦する「若手経営者の会」等の新規事業に向かって、皆様から御協力を頂き、推進してまいりました。働き方改革は建設業に

連する業界全体を明日に繋げる為には不可欠なテーマであり、少子高齢化社会で、働く人の絶対量が不足する環境下、対応を間違えれば命取りに成りかねないだけに、早急且つ積極的な行動が必要とされます。注目される労働時間の短縮と合わせて更に重要なことは、業務のIT化、そして自前主義からアウトソーシングへ

の切り替え等コストパフォーマンスの抜本的な刷新が急務と成ります。加えて今迄の業務を根底から変える全商品へのICタグの採用等、工製品の協力が今後の大きなテーマとなります。今まで以上に業界全体を意識した経営者として行動しなければ、明日の業界或いは個々の経営は存在しません。全日電材連への更なる御支援をお願いいたします。

もう一つの事業である「若手経営者の会」が直面する課題は第4次産業革命と言われるほどのIT関連領域の拡大です。AIそしてIoT、更にビッグデータ、これらに関わらない製造業そして流通業は存在しません。3Dプリンター、amazon等が大きな社会変革をリードしております。これまでの産業の存立基盤を根底から覆すパラダイムチェンジが始まっています。そして誰も止めることは出来ません。

でも恐れているは何も解決にならないだけでなく、企業家としての責務を果たすことが出来ません。この社会変革を前向きにとらえ、新たな事業を開拓することが生き残りの為の最善策と言えます。まさに創業と守成は何れが難きや、万人の理解を基にする決断を避ける事は出来ません。本年3月開催の第五回目の勉強会で、全参加者の意見を集約し、今後の方針を決めてまいります。

年頭早々に厳しいことを書かせて頂き恐縮ですが、甘く見て厳しい対応を求められるより、厳しく観察し対処法を用意することが経営の要諦かと存じ、御許し下さい。

様々な変革の中で当連合会はより一層の団結と協調を固め乗り切つてまいります。

結びに成りますが組合員並び社員各位の本年益々の御隆昌を御祈念申し上げます。